

## (6) 畜産振興課



# 【拡充】畜産所得向上支援事業費

## 概要

○国際競争に打ち勝つ競争力の強いやまがたの畜産業の実現に向けた、中小家族経営を含めた意欲ある担い手が行う生産基盤の強化、生産者の先進地視察による飼養管理技術の向上などの取組みへの支援

予算額（当初）：89,878千円

事業期間：令和3～6年度

## 背景／課題

### 背景

- ・担い手の高齢化等で中小規模経営の減少が顕著
- ・ウクライナ情勢等の影響による飼料費・資材費の高騰
- ・法人化が進む一方で拡大意欲（新規参入も含む）を持つ家族経営体が多い
- ・長時間労働及び労働力不足
- ・コロナ禍での畜産物の需要が減少
- ・国際経済連携協定等の発効による産地間競争の激化

### 課題

- ＜畜産を核とした地域農業の収益向上＞
- ・規模拡大等を図るための多額の初期投資
  - ・作業の外部化・省力化、生産費の3～6割を占める飼料費の低減
  - ・消費者から選ばれる高品質な畜産物の生産
  - ・新型コロナ及び国内外の産地間競争に負けない畜産経営の育成

## 事業内容

### ＜事業メニュー＞

#### 1 ハード支援

- (1) 簡易畜舎等整備支援  
生産拡大、堆肥利用推進等のための施設や機械の整備等を支援
- (2) 空畜舎等リニューアル整備支援  
空畜舎等施設を有効活用するための施設の改修等を支援
- (3) 生産性向上・省力化ICT機器整備支援  
生産性向上や省力化のために必要な機械や設備の整備を支援
- (4) 飼料基盤強化支援  
飼料基盤の整備のための施設や機械の整備を支援

#### 2 ソフト支援

- (1) 生産性向上技術開発・研修支援
- (2) 畜産物・畜産加工品の販路開拓等支援

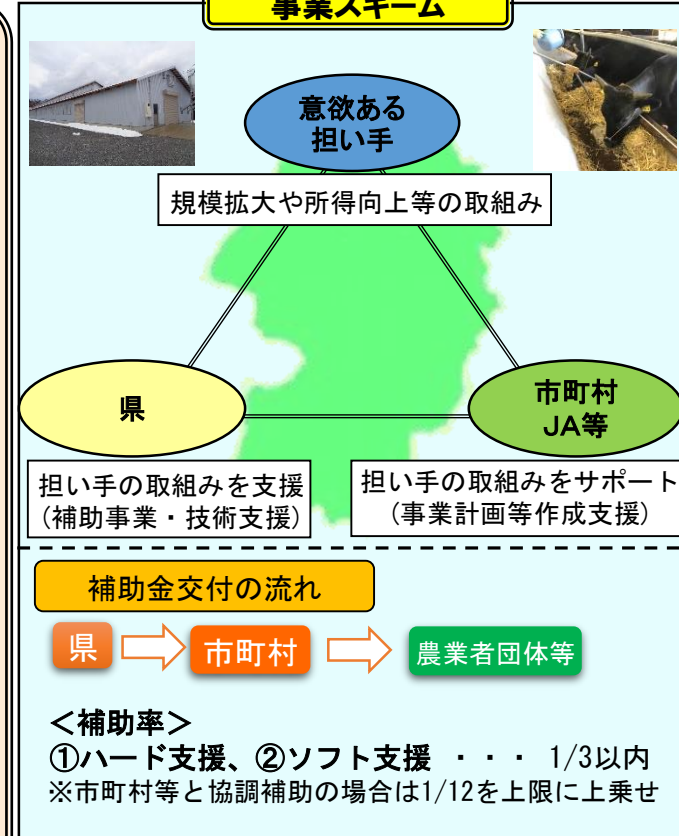
### ＜事業実施主体＞

営農集団（2戸以上の畜産業者）、農協、市町村等

#### 3 フォローアップ支援【新規】

生産者の目標達成に向けたフォローアップ支援、生産者の先進地視察等

## 事業スキーム



## 事業目標

・畜産産出額 R3（直近）392億円 ⇒ R6（目標）423億円

## 問い合わせ先

- 担当課：畜産振興課  
畜産振興担当
- 電話：023-630-2473

# 【拡充】乳用牛改良増殖対策事業費

## 概要

- 酪農家における乳用牛の能力検定及び飼養管理改善指導への支援
- 担い手を対象とした乳用牛ベストパフォーマンス実現セミナーの開催
- プレミアム受精卵産子等を活用した優良な高能力後継牛の確保

予算額（当初）：4,616千円

事業期間：平成18年度～

## 背景／課題

### 背景

- ・酪農家の高齢化等の進展により、酪農家戸数の減少傾向が顕著
- ・ウクライナ情勢や円安の影響による飼料及び資材価格の高騰に伴い、酪農家の経営状況が厳しく、先行きに不安感
- ・安定的な酪農経営を図るため、生乳生産量や品質を高めることが急務

### 課題

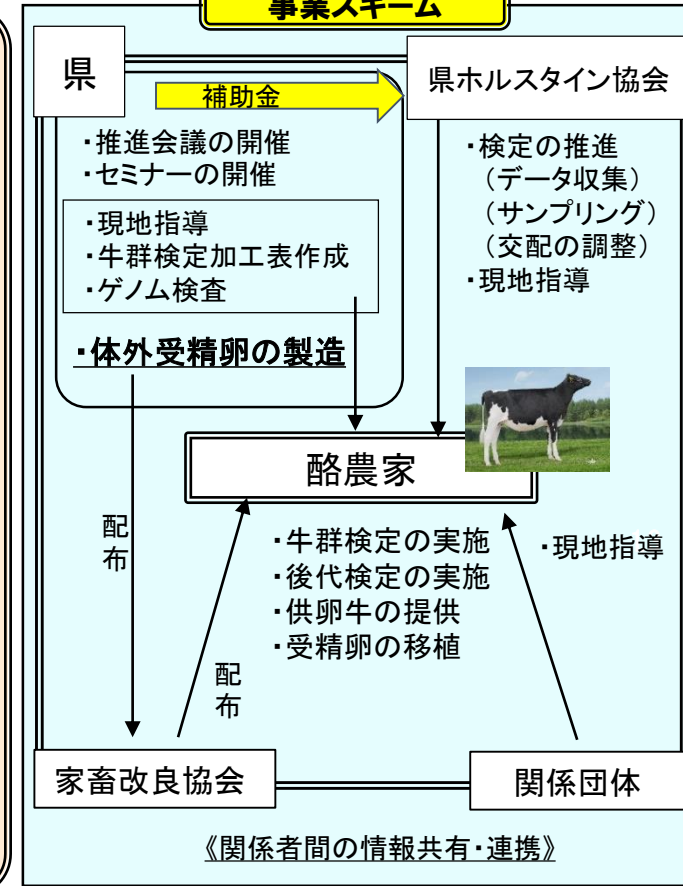
- ・将来を担う意欲ある若手酪農家等の育成
- ・酪農家の生産性向上と酪農経営の改善
- ・優良後継牛の確保

## 事業内容

- 1 乳用牛改良推進会議  
関係団体等の推進会議を開催
- 2 乳用牛改良推進事業  
乳用牛群の検定及び後代検定を推進するための経費に対する補助金の交付  
(事業主体：(一社)山形県ホルスタイン協会)  
(補助率：事業費の30%以内)
- 3 乳用牛ベストパフォーマンス支援事業
  - ①牛群検定の普及推進  
関係団体と連携した牛群検定農家への現地指導
  - ②牛群検定加工表作成  
畜産研究所が分かりやすい検定データ資料を作成し酪農家及び関係者へ配布
  - ③ベストパフォーマンス実現セミナーの開催  
担い手を対象とした、技術研修会の開催
  - ④優良後継牛確保対策事業【新規】  
酪農家で生まれたプレミアム受精卵由来の牛等をゲノム検査して優良な雌牛を選抜するとともに、OPU技術を活用して、体外受精卵を製造・配布



## 事業スキーム



## 事業目標

・経産牛1頭当たり生乳生産量 R3(直近) 7,337kg ⇒ R6(目標) 7,850kg

## 問い合わせ先

- 担当課：畜産振興課  
畜産振興担当
- 電話：023-630-3351

# 【継続】やまがたの和牛増頭戦略事業費

## 概要

○山形生まれ・山形育ちの「総称山形牛」の生産拡大に向けた、和牛繁殖雌牛の増頭、一貫経営への移行推進、受精卵移植等による和牛子牛の増産への支援

予算額（当初）：15,557千円

事業期間：令和3～6年度

## 背景／課題

### 背景

#### 【繁殖経営】

- ・戸数は高齢化の進展などにより減少傾向
- ・和牛繁殖雌牛頭数は増加傾向にあるが、肥育素牛の県内自給率は約2割と低い

#### 【肥育経営】

- ・戸数は減少傾向にあるものの、法人化が進展
- ・生産コストの低減を図るため、肥育素牛を自ら生産し確保する一貫経営が、増加傾向

### 課題

- ◆担い手の育成確保
- ◆繁殖基盤の強化と県産和牛子牛の増産
  - ・和牛繁殖雌牛の更なる増頭と能力向上
  - ・一貫経営移行時の繁殖技術の習得
  - ・酪農と連携した受精卵移植（ET）の促進

## 事業内容

- 1 和牛増頭に向けた戦略の展開
  - ・和牛増頭戦略協議会、地域推進会議、和牛塾の開催
- 2 和牛繁殖・肥育一貫経営移行支援事業
  - ・一貫経営に移行する肥育農家を対象に、繁殖管理に必要な技術習得等を重点支援
  - ・和牛繁殖雌牛の飼養管理技術の向上等に関する研修会の開催や巡回指導
- 3 和牛繁殖雌牛増頭事業
  - ・意欲ある生産者の和牛繁殖雌牛増頭を支援
- 4 和牛繁殖雌牛導入事業
  - ・市町村と県で基金を造成し、中核的な畜産担い手に和牛繁殖雌牛を貸付
- 5 ET活用和牛増産事業
  - ・県が製造した受精卵の活用により和牛子牛を増産
- 6 牛肉食味の「見える化」
  - ・食味の特長を客観的に評価できる指標を「見える化」し、食味に優れた「総称山形牛」をPR
- 7 新技術を活用した高能力繁殖雌牛整備事業
  - ・ゲノミック評価技術を活用した高能力な和牛繁殖雌牛の選抜等を支援

## 事業スキーム

### 【県域】やまがたの和牛増頭戦略協議会

- ・県域で増頭を推進するための企画立案
- ・和牛塾等の開催による技術向上と生産者間の交流推進



### 連携

### 【地域】地域増頭戦略推進会議

- ・地域で増頭を推進するための企画立案
- ・和牛繁殖（一貫）モデル農家を地域ぐるみで育成

### 和牛農家



- 酪農家との連携（ET）
- 高能力な和牛繁殖雌牛の整備
- 生産性の向上（繁殖技術の習得）

### 和牛繁殖雌牛増頭事業費補助金交付の流れ



和牛繁殖雌牛の導入経費（運搬費等を含む）支援  
※補助額：導入経費の1/6又は100千円のいずれか低い額

### 高能力繁殖雌牛整備事業費補助金交付の流れ



ゲノミック評価分析経費の支援  
※補助額：8千円/頭

## 事業目標

・和牛繁殖雌牛の頭数 R3（直近）7,940頭 ⇒ R6（目標）8,500頭

## 問い合わせ先

- 担当課：畜産振興課  
畜産振興担当
- 電話：023-630-2473

# 【拡充】自給飼料生産対策事業費

## 概要

○自給飼料の生産利用を拡大し、畜産経営の安定化を図るため、稲発酵粗飼料専用品種の種籾生産と供給体制の構築・省力栽培、飼料分析、コントラクターの育成、子実用とうもろこし生産利用の推進と体制の整備、簡易放牧の普及拡大等の取組を支援

予算額(当初):19,654千円

事業期間:令和3～7年度

## 背景/課題

### 【背景】

- ・県内繁殖牛頭数の増加による粗飼料需要の高まり、及び水田フル活用による稲発酵粗飼料(以下、稲WCS)需要の高まり
- ・大部分を占める中小規模畜産農家は、飼料生産の労力確保が困難
- ・輸入飼料価格の高騰による国産飼料への転換が必須であり、特に濃厚飼料の主体となる子実用とうもろこしの普及拡大が急務

### 【課題】

- ・稲WCS専用品種の省力栽培技術の確立、種籾の安定確保
- ・飼料生産を請け負う組織コントラクターの育成、飼養管理省力化のための簡易放牧の普及
- ・子実用とうもろこし多収に向けた栽培技術の普及、生産流通体制の整備

## 事業内容

- ①自給飼料増産推進事業
  - 稲WCS専用品種「山形飼糯138号」の生産利用・拡大
    - ・直播栽培等の現地実証
    - ・種籾生産及び供給体制の構築
- ②飼料利用高度化推進事業
  - 自給飼料の成分分析及び巡回指導等
- ③自給飼料安定確保対策事業
  - モデルとなるコントラクターの育成
- ④子実用とうもろこし生産利用推進事業
  - 子実用とうもろこし栽培の現地実証
- ⑤耕畜連携による簡易放牧拡大事業
  - 簡易放牧普及拡大のための新技術(吸血昆虫対策)を実証
- ⑥県産自給飼料生産拡大体制構築事業【新規】
  - 子実用とうもろこし作付支援(補助金の交付)
  - 子実用とうもろこし収穫支援(収穫機械共同利用)
  - 飼料工場を核とした飼料コスト低減支援(子実用とうもろこし乾燥・加工・保管を担う施設整備に向けた体制づくり)

## 事業スキーム

### 【県】

- ①種籾の需給調整、採種・栽培の支援、技術指導等
- ②飼料分析、巡回指導等
- ③飼料生産実証の支援、技術指導
- ④技術指導
- ⑤新技術の実証とPR
- ⑥補助金交付、収穫機械の共同利用、乾燥・加工・保管設備の設置

①【山形県稲発酵粗飼料種籾生産・供給協議会】  
・稲WCS種籾生産及び供給体制の構築

①③④⑥【耕種農家・コントラクター】  
・稲WCS種籾生産(委託)  
・飼料作物(稲WCS及び子実用とうもろこし)栽培実証

②⑤【畜産農家】  
・飼料分析結果を活用した飼料給与  
・簡易放牧の実証

⑥【機械利用協議会】  
・子実用とうもろこし収穫機械を導入し、共同利用  
【県】  
・補助金交付  
・施設整備の体制構築

## 事業目標

- ・稲発酵粗飼料用イネ作付面積 R3(直近)966 ha ⇒ R6(目標)1,100 ha
- ・子実用とうもろこし作付面積 R3(直近)38 ha ⇒ R6(目標)120 ha

## 問い合わせ先

- 担当課 : 畜産振興課  
畜産生産基盤担当
- 電話 : 023-630-2435

# 【継続】豚熱等対策事業費

## 概要

○豚熱・アフリカ豚熱の侵入防止を図るため、防疫体制を強化するとともに、県内全域の飼養豚に対して豚熱ワクチンの計画的な接種を行い、発生を未然に防ぐための体制を構築

予算額(当初) : 321,062千円

事業期間 : 令和2年度 ~

## 背景/課題

### 背景

- ・平成30年9月、国内では26年ぶりに豚熱が発生し、中部地方から関東、東北、近畿地方へと発生が拡大  
その原因となっている野生イノシシについても感染が同様に拡大
- ・アフリカ豚熱が、中国からアジア全域へと感染が拡大しており、国内の主要空港で、違法に持ち込まれ摘発された豚肉製品の一部から、病原体が検出
- ・令和4年12月現在、県内養豚場で1農場、野生イノシシで20市町127事例の豚熱陽性が確認されており、今後も本県での発生リスクが極めて高い状況

### 課題

- ・検査の迅速化、診断機能の充実による防疫体制の強化が必要
- ・農場におけるイノシシ等の野生動物の侵入防止や消毒の徹底等による防疫対策の強化が不可欠
- ・発生を未然に防ぐためのワクチン接種体制の構築が必要
- ・発生した場合、迅速な対応が必要

## 事業内容

### ① 豚熱・アフリカ豚熱の検査体制の強化

- 家畜保健衛生所の検査・診断機能の充実を図るため、検査機器等を整備
  - ・検査機器（リアルタイムPCR）の整備
  - ・検査診断用薬品及び検査資材の整備

### ② 豚熱ワクチン接種体制の強化

- 全国的に感染が拡大している養豚場での豚熱の発生を未然に防ぐため、県内全域の飼養豚を対象とした継続的なワクチン接種体制の構築

### ③ 特定家畜伝染病発生時に備えた経費計上

- 万が一、豚熱を含む特定家畜伝染病が発生した場合、迅速かつ的確な防疫対応を行い被害を最小限に食い止めるため予算措置を行う

#### 特定家畜伝染病とは

- ・口蹄疫
- ・豚熱
- ・アフリカ豚熱
- ・高病原性鳥インフルエンザ
- ・低病原性鳥インフルエンザ
- ・その他措置が必要なもの



## 事業スキーム

- ① 養豚場における豚熱ワクチン接種体制は、知事認定獣医師又は家畜防疫員の2体制に加え、新たに豚熱ワクチン接種方法等の研修を終了した農場職員（登録飼養衛生管理者）による接種が可能となる
  - ・家畜防疫員：ワクチン接種手数料（@310円/頭）
  - ・知事認定獣医師及び登録飼養衛生管理者：ワクチン使用許可申請・許可手数料（@70円/頭・薬剤費、管理費相当）
- ② 特定家畜伝染病の発生に備え、初動防疫を速やかに行うための経費を予め確保し、被害を最小限に抑える

## 事業目標

適切な豚熱ワクチンの接種による養豚場における豚熱発生リスクの低減  
※山形県豚熱対策本部対応マニュアル

## 問い合わせ先

- 担当課 : 畜産振興課 衛生担当
- 電話 : 023-630-2470